

「2016年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

2. あなたが本学大学院に進学した主な理由は何ですか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	現在の仕事に関して、より専門知識を身に付けるため。	6	25%
B	興味・関心のある分野の勉強がしたくなったから。	12	50%
C	資格取得のため。(税理士試験科目免除、臨床心理士試験受験資格、教員専修免許等)	4	17%
D	大学院修了という学歴がほしいから。	0	0%
E	将来に不安を感じたから。	0	0%
F	時間に余裕が出来たから。	0	0%
G	その他	2	8%

G:理由

-	その分野に転職したい、社会に何かを残したいから
---	-------------------------

3. あなたが本学大学院に進学するにあたり、情報をどこで得ましたか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	学部の指導教員	9	21%
B	先輩	8	19%
C	学内での説明会	3	7%
D	オープンキャンパス	4	10%
E	大学院パンフレット	10	24%
F	本学ホームページ	7	17%
G	その他	1	2%

G:具体的内容

-	同僚に勧められて
---	----------

4. あなたの研究についてお尋ねします。

①現在、あなたの行っている研究はどのようなものですか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	理論的研究	7	27%
B	調査・インタビュー・実験を用いる研究	10	38%
C	二次資料・史料の収集や整理を伴う研究	6	23%
D	課題の発見に関する研究	3	12%
E	課題の解決を目指す研究	0	0%
F	実践的応用に関する研究	0	0%
G	その他	0	0%

G:具体的内容

-	-
---	---

②現時点における研究の状況はどのようになっていますか。

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
研究テーマ・内容が明確である	3 (23%)	7 (54%)	3 (23%)	0 (0%)
研究の独自性(オリジナリティ)を意識しながら、研究を行っている	2 (15%)	8 (62%)	3 (23%)	0 (0%)
研究の計画が具体的に定まっている	3 (23%)	6 (46%)	4 (31%)	0 (0%)
研究を行うときには、自分自身の判断によってすすめている	3 (23%)	4 (31%)	4 (31%)	2 (15%)
他者(学内の教員、先輩)に意見をもらう機会を自分で作る	6 (46%)	5 (38%)	2 (15%)	0 (0%)
学外の研究者と交流している	2 (15%)	4 (31%)	5 (38%)	2 (15%)

「2016年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

5.今年度、大学院で開講されている授業についてお尋ねします。

①今年度、あなたは何科目履修しましたか。

	人数	割合
0科目	1	8%
1～2科目	2	15%
3～5科目	1	8%
6～10科目	2	15%
11科目以上	7	54%

②(1)その中で今後あなたが研究をすすめるにあたって、大いに役立つと思う科目がありましたか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	ある	13	100%
B	ない	0	0%
C	科目の履修はしていない	0	0%
	無回答	0	0%

②(2)その科目名は何ですか。

(3)どのような点が役に立つと思ったのですか。

	科目名	理由
地文M1	すべて	はじめて学ぶ分野なので、どの科目についても新しい知識が得られた。また何気なく取り入れた情報が、のちに良いアイデアを生み出すきっかけになるので、どの科目も大変勉強になっています。
地文M1	ゼミ、英語論文の書き方	論文の書き方を1から教えてもらえるから
地文M1	英語論文の書き方、英語学持論	大学院へ来たのは研究のためですから、直接論文に関係する科目を重視しています。有意義な授業、指導を受けています。
地文M1	考古学持論Ⅰ・Ⅱ	指導教員以外の意見として考え方を学べると同時に専門分野における概念や理論を多く知ることができ、自分の研究を進めるうえで、とても役立っている。
地文M1	社会心理学特論、心理学研究法特論	共通して、心理学の研究法について学べるという点。 修士論文の研究計画書や参考している論文を発表することで、先生方や履修生に原著の問題点を指摘して頂いたり、自身の研究計画の足りない点について共に考えて頂ける。 社会心理学特論については、少なくとも私の所属する学科では珍しい他大学の先生で、より多角的な視点を得ることができた。
地文M1	心理学研究法特論	様々な研究法について自身で調べて発表することによって、自分の研究に向いている方法が何なのか考えられるようになった。
地文M1	南島社会特論などなど	南島社会特論、植民地社会特論、国際社会特論、比較社会特論の講義では私の研究テーマに関連させた講義も行っていただいたから。
地文M2	植民地社会特論	沖縄近現代史を研究していく視座を定めていくうえで参考になった。
地文M2	東アジア文化人類学特論	理論的なものや用語の概念の整理法など為になるところが多い。
地文M2	臨床心理学特殊研究	毎回の講義の際に、研究を行う上で、必要な知識や貴重な意見を、教授やゼミのメンバーから頂ける。共に検討できるところが役立った。

③(1)今後あなたが研究をすすめるにあたって、何らかの改善をした方が良いと思う科目がありましたか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	ある	2	15%
B	ない	9	69%
C	科目の履修はしていない	0	0%
	無回答	2	15%

③(2)その科目名は何ですか。

(3)どのような点の改善した方が良いと思ったのですか。

	科目名	理由
地文M1	-	日々の課題が多く、論文に充てる時間が取れなかった。テストや課題なくしてほしい。
地文M1	他領域の科目	他領域の科目を取ることは法で定められているのでしょうか？

「2016年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

6. あなたの研究に関する現在の指導体制・環境についてお尋ねします。

①現在の指導体制・環境に満足していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	満足している	12	92%
B	満足していない	0	0%
C	どちらでもない	0	0%
	無回答	1	8%

②満足できない理由は何ですか。(①でBと回答した方のみ)

-	-
---	---

③指導体制、方法、環境に関して、入学前に担当教員によるオリエンテーションがあった方がよいですか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	あった方がよい	5	38%
B	なくてもよい	4	31%
C	どちらでもよい	3	23%
	無回答	1	8%

④その他、指導体制、方法、環境に関してご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。

-	-
---	---

7. 大学院の施設・設備についてお尋ねいたします。

①大学院の研究や論文作成のための施設・設備に満足していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	満足している	3	23%
B	満足していない	9	69%
C	どちらでもない	0	0%
	無回答	1	8%

②満足していない理由は何ですか。(①でBと回答した方のみ)

地文M1	大学院内の共同研究室が全く使えません。他の専攻の方々が多くを陣取って使用しているため使える雰囲気ではない。同じ学費を払っているのに使える環境(他専攻の方々の圧力)でないことに憤慨しております。別で専攻ごとに研究室を設けるか、共同研究室内にパーテーションを設けるなどして対応していただかないと困ります。ちなみにですが、私だけではなく、ある専攻の方々以外の院生が同じことを思っています。早急に対応していただきたいです。
地文M1	共同研究室を分けて欲しいです。人数の少ない専攻の生徒は使いにくいです。片身が狭いです。大人げないのですが実際にいじめが起きています。
地文M1	13号6階のパソコン室に設置してあるコピー機には、用紙を常備してほしいです。
地文M1	大学院生が共通で使用するPC室のPCの立ち上がりが遅く、立ち上げて使えるようになるまでに10分から20分ほどかかる。立ち上がりが遅すぎるため、急いでいる時にはわざわざ5号館の学部のPC室まで出向いてPCを利用することもあるほど遅い。おそらくその結果として、シャットダウンをせず、立ち上げたままにする学生がいるのだと思う。PCの占有を禁止する以前に、PCの環境を改善してほしい。 また、大学院生は印刷ミスや用紙の使用量が多いため、現在は制限して4階の管理室を通して用紙を配布しているとのことだが、学部生よりはるかに膨大な資料を参照し、執筆する論文の量も圧倒的に違うため、印刷ミスや使用量が増加するのは当然のことのように思う。わざわざ資料を印刷・コピーする度に4階に行かなければならないのは面倒であるし、何のために高額な施設使用料を支払っているのか分からない。現在の状況で6階に印刷機・コピー機を設置する意味があるのだろうか。
地文M1	13号館6階のパソコン室のパソコンが、5分以上かけて立ち上がるので印刷物等がある際に困ることがある。 空調の調節が効かず、夏は寒すぎたり冬は暑すぎたりすることがある。
地文M1	大学院専用の図書館が無い。
地文M2	パソコンの不具合が多い。(具体的には、作業中にフリーズし、データが消える。立ちあがりがおそい。)コピー用紙を常備して頂けると大変助かります。

「2016年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

地文M2	パソコン起動、動作の遅さ、印刷用の紙の制度が変わり、取りに行かないといけない。週末紙もらえない。
地文M2	13号館の最上階のパソコン室で印刷しようとした際、用紙自体が無いのでわざわざ4階まで申請して用紙を手に入れなければ印刷ができないこと。 大変、研究が滞る原因になっており苦慮しているところである。以前のように戻していただきたい。 このままの環境では後輩達に沖国の大学院進学を勧めることができない。

③講義や課題や論文の作成にあたり、大学の設備(研究室及び図書館等)を利用していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく利用している	8	62%
B	たまに利用している	3	23%
C	全く利用していない	1	8%
	無回答	1	8%

④その他、大学院の施設・設備に関してご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。

地文M1	7.②で書いた通りです。
地文M2	共同研究室のプリンターの故障が目立ちます。中間発表や修論提出、最終発表の時期の故障は院生にとって死活問題になりますので、この時期の故障には早く対処していただけるようお願いします。

8. 教育支援者(TA・SA)制度についてお尋ねいたします。

①あなたは、現在、教育支援者(TA・SA)として、学部授業のサポートを行っていますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	行っています	3	23%
B	行っていません	8	62%
C	過去に経験があります	1	8%
	無回答	1	8%

②M2以降も、教育支援者(TA・SA)を続けたいと思いますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	続けたい	0	0%
B	続けたくない	2	15%
C	どちらでもない	3	23%
	無回答	8	62%

③上記②において、その回答を選んだ理由は何ですか。

地文M1	教員から要請があれば続けたいと思う。
地文M1	研究を進めたいので、TAで時間がとられるのが惜しいと感じるため。
地文M1	私の所属する学科ではほとんどの場合、アルバイトや仕事をしながら学生生活を送れるようなカリキュラムではないし、TAを続けられるような科目が現状ないに等しい。続けたくても不可能に近い。
地文M2	研究や実習で多忙となる為

④教育支援者(TA)経験が無い方へ質問です。教育支援者(TA)の経験をしてみたいですか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	してみたい	3	30%
B	してみたくない	1	10%
C	どちらでもない	4	40%
	無回答	2	20%

⑤上記④において、その回答を選んだ理由は何ですか。

地文M1	経験を積みたいからです。
------	--------------

「2016年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(地域文化研究科)

地文M1	時間的な余裕がない。
地文M1	支援ができるほど能力が無い。
地文M1	勉強になるし、おそらく様々な発見もあるかと思う。 また実際に学部で授業している先生から見聞して学ぶことができる。
地文M1	大学院ではほとんど一人での活動が多くなってしまいますので、他の学生の意見などに触れられるから。
地文M2	今年度で修了予定のため
地文M2	研究に集中したいため。

9. 本学に付置している研究所についてお尋ねします。

①本学にある4研究所を知っていますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	知っている	7	54%
B	知らない	5	38%
C	興味がない	0	0%
	無回答	1	8%

②本学の研究所の施設を利用したことがありますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく利用している	1	8%
B	たまに利用している	1	8%
C	全く利用していない	10	77%
	無回答	1	8%

③本学の研究所が主催する「研究会」などのイベントに参加したことがありますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく参加している	0	0%
B	たまに参加している	7	54%
C	全く参加していない	5	38%
	無回答	1	8%

10. その他、ご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。(時間数、科目の種類など)

地文M1	私自身は大学院の環境には満足しています。学部と違い少人数もしくは1対1の講義となるので、理解度も高くなり修士論文を作成する環境はある程度整っていると考えます。
地文M1	7.②で書いた通り、もう少し設備の現状を把握してもらいたいです。苦しい思いをしている方々が多くなります。
地文M1	質問9-2の研究所の施設が何なのかどこにあるのかがそもそも分からないため、施設を利用しているかどうか分からない。
地文M1	“人数が多かったり科が違ったりすると、その分だけ内容が一般化・教養化する傾向にあると思う。初学者にはわかりやすいが、もしかするともっと専門的に学びたい人もいたかもしれない……”と思うと、なんだか申し訳ないかんじもした。 また、受付時間帯など社会人の受入体制について、疑問に思うことがたまにあります。けれども、丁寧に対応していただき、とても助かっています。”
地文M2	南島文化研究所に保管してある資料のリストが作成されていると、研究の利便性が高まると思います。ご検討のほど、よろしくお願ひします。